

1. 基本情報

- (1) 国名：ベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ハノイ市（人口：824.6 万人）
- (3) 案件名：国立がん病院機材整備計画（The Project for Improvement of Equipment in National Cancer Hospital）
- (4) 計画の要約：本計画は、ベトナムのがん予防・治療ネットワークの拠点病院でハノイ市にある国立がん病院において、医療機材整備を行うことにより、診断体制の強化及びアクセスの改善を図り、国立がん病院並びに北部及び中部地域における医療サービスの質向上を通じた、ベトナムにおける脆弱性への対応に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

2014 年の日越共同声明では、ベトナムの医療分野への支援やがん及び生活習慣病を含む非伝染性疾患の予防と管理について両国協力の重要性を認識しているほか、ベトナムは我が国の「グローバルヘルス戦略」のパートナーシップ国の一つであるところ、本計画実施の意義は高い。

- (2) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ベトナムでは、経済成長に伴うライフスタイルの変化に伴い、死因上位の疾病が感染症から非感染症へと変化し、2019 年の全死因中の非感染性疾患死亡割合は 80%（保健指標評価研究所：IHME）と年々増加し、その 40%をがんが占め（WHO：2016 年）、2020 年の新規がん罹患件数は 18 万件を超え増加傾向にある（国立がん病院）。

国立がん病院は、2,100 床を有するベトナム最大のがん専門病院で、北・中部地域やハノイ市内を中心に、年間 8 万人超の入院患者、40 万人以上の外来患者の受入れに加え、2.5 万件の外科手術を実施している。一方、医療機材の不足や施設老朽化に伴い、増加する患者のニーズに対応できていない。そのため、同病院は政府資金で老朽化した施設の建て替えを行っているが、新施設に必要な機材の整備が喫緊の課題となっている。

ベトナムは、首相決定で「非感染性疾患の予防と管理、高度専門医療の整備」や 2025 年までの「がん、心血管疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患による早期死亡の 20%減少」及び「一般的がん疾患の早期診断率の 40%増加」（いずれも対 2015 年比）を目標として掲げており、国立がん病院の医療機材の整備によるがん診断・予防体制の強化は、優先度の高い事業として位置付けられる。

また、本計画は、JICA 世界保健医療イニシアティブの「診断・治療体制の強化」及び JICA グローバル・アジェンダの「保健医療」で重要な取組方針とされる「中核病院診断・治療強化」に合致する。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容：

- ア) 機材等の内容：医療機材（PET/CT システム、CT 撮影装置、MRI 撮影装置等。）
- イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、調達管理等

② 期待される開発効果

医療機材の整備を通じて、国立がん病院が対象とする圏域の人口計約 6,100 万人に対し、がんの早期診断及び治療体制の強化への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：保健省（Ministry of Health）

④ 他機関との連携・役割分担：国立がん病院は、本邦国立がん研究センター・静岡がんセンターと提携している。本計画で整備する医療機材を活用し、右機関との交流を通じて、診断・治療体制強化による相乗効果が期待できる。

⑤ 運営／維持管理体制：国立がん病院（National Cancer Hospital）医療資機材部が担当する。詳細は協力準備調査で確認する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：C
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- ベトナムの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。2014 年の日越共同声明では、ベトナムの医療分野への支援やがん及び生活習慣病を含む非伝染性疾患の予防と管理について両国協力の重要性を認識している（「外交的観点」）。また、これまで、ベトナムでは北部・中部・南部地域で拠点となるバックマイ病院、フエ中央病院、チョーライ病院に対し、無償資金協力や技術協力、有償資金協力を通じて病院機能の強化を行うと共に人材を育成し、各地域の拠点病院としての能力強化を行っており、このような拠点病院強化と域内への展開は保健セクター協力の模範として他国にも展開しており、かかる状況をふまえ、2022 年 5 月に策定された「グローバルヘルス戦略」においては、ベトナムはパートナーシップ国となっている。本計画は、UHC 達成に向け非感染性疾患の増加という疾病負荷の変容に伴う保健医療ニーズの変化に対応するもので、これまで我が国がベトナムにおいて実施してきた拠点病院に対する実績に加え、本計画により得られた教訓を他国にも展開していくことを見据えて、域内への展開の取組をがんの診断、予防、治療にも広げることは、同戦略に合致し、我が国が主導するユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（Universal Health Coverage : UHC）の達成にも寄与する（「外交的観点」、「重要政策との関係」、「広域性の観点」）。本計画は、上記の観点を満たすものであり、無償資金協力の供与が適当と判断できる。
- 他の援助機関の対応：世界銀行は、保健人材教育機関強化、国家レベルの感染

症対策、貧困層向け保険基金整備のほか、北東部紅河デルタ地域中心の郡レベル医療機関の強化を実施。アジア開発銀行は、医療人材の資格制度整備及び中南部省レベル医療機関への支援実績がある。また、米国は、米国国際開発庁（USAID）が保健人材育成を進め、米国疾病予防管理センター（USCDC）が汎呼吸器疾患の監視能力強化を支援している。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ベトナム向け無償資金協力「国立産婦人科病院機材整備計画」（評価年度 2015 年）の事後評価等では、救急車の広さや自動染色装置の検査のスピード、新生児用人工呼吸器の対象体重など、一部機材の先方ニーズとのミスマッチが指摘されている。本計画では、これらの教訓を生かし、協力準備調査時には、医療技術の進化等を考慮しつつ、実施機関と機材の仕様等につき十分な確認を行うことが必要である。

以 上

〔別添資料〕 地図

〔別添資料〕 写真

地図「国立がん病院機材整備計画」



(出典 : Google Maps)

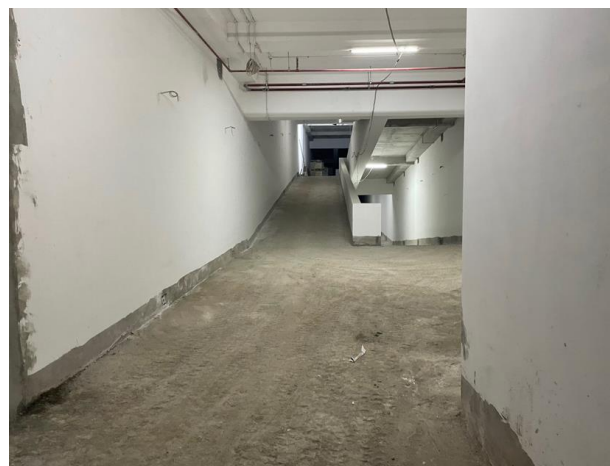
写真



【国立がん病院 第一施設の工事現場】



【機材整備予定の検査室（例）】



【工事現場内部の様子】

出典：JICA本部・事務所による現地視察時に撮影